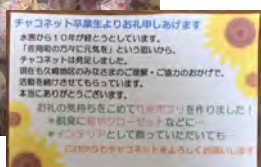


佐用町水害から10年

～感謝の気持ちを込めて交流会を開催～

2009年8月9日に発生した水害から10年を迎えるにあたり、7月27日(土)～28日(日)の日程で兵庫県佐用町久崎に行きました。水害直後、西宮市社会福祉協議会と関西学院大学、NVNADが久崎地域で片付けなどの作業をさせていただいたことをきっかけに、関学生と阪大生主体で立ち上がったチャコネット(佐用町学生支援ネットワーク)のメンバーが、これまでお世話になってきた久崎地域の皆様に感謝とお礼の気持ちをお伝えすることが今回の大きな目的でした。



初日は卒業生と現役生が久崎に集合し、感謝の気持ちを込めて手作りした竹炭ポプリとメッセージカードを手に、一軒一軒訪ねて回りました。ご不在の方も多くすべてを配布することは出来ませんでしたが、お渡しできた方には大変喜んでいただけました。そのあと久崎地区センターにて、久崎の皆様との交流会を開催させていただきました。住民の方、チャコネットの卒業生と現役生、あわせて40名近くが当時の懐かしい話や現在のチャコネットの活動などを話題に、交流を楽しみ

ました。この交流会を通して、久崎の皆様へ、チャコネットがこれまで10年間活動を継続させていただいた感謝の気持ちをお伝えすることが出来たかと思えます。

2日目は、竹をなたで割り、流しそうめんのセッティングをして、地元の皆様へ流しそうめんを振る舞いました。雷雨のため短時間の開催となりましたが、大変喜んでいただけました。午後から行ったカフェも、大人のみでなく子どもたちの参加も多数ありました。

10年という節目に15名もの卒業生が久崎に集合し、感謝とお礼の気持ちをお伝えすることができたことをとても嬉しく思っています。今回久崎の皆様から、活動を継続してほしいという声をたくさんお聞き出来たので、また話し合っていきたいと考えています。

最後になりましたが、10年前の水害により佐用町内で犠牲になられた方々のご冥福を心よりお祈り申し上げます。



※詳細につきましてはNVNADホームページのブログをご覧ください。

交流会の様子

- c o n t e n t s -

- P 1 佐用町水害10周年交流会
- P 2 居場所作り事業～岩手県野田村支援～/Vision117
- P 3 障がいを持った方の、避難ワークショップ/大阪府北部地震1年の集い
- P 4～5 NVNAD通常総会報告
- P 6 西日本豪雨災害支援活動/子ども防災クラブ/KSN交流会/ふれぼの縁日
- P 7 Nうごき/Nごよみ
- P 8 会員・寄付者・募金者のみなさま/ご報告と御礼/編集後記

居場所作り事業

～岩手県野田村支援～

NVNAD理事 米山清美

2011年3月11日に発災した東日本大震災から8年が経ちましたが、中長期的に被災地を支援しようとするNVNADでは、現在も岩手県野田村での子ども支援を続けています。その一つは2012年度より継続している小中学生同士の交流事業ですが、今年度新たな活動に取り組んでいます。

それは「子ども、学生、保護者向け居場所作り事業」として、野田村社会福祉協議会のボランティアセンターの協力のもと、5月より毎月1回保健センターで開催する活動です。子どもたちにはのびのび遊ぶ場、保護者たちには子育て相談はじめ井戸端会議の場に、そして中高生にはゲームをしたりしゃべり場として。そんな何気ない「場」の提供ですが、そこには子どもの遊びを見守ったり、ゆったり出来る雰囲気を作る「人」の存在も必要です。これには野田村のボランティアさんとも協働していきます。



震災から8年以上が経過し、野田村でも生活環境を始め様々な変化が見られ、子どもを取り巻く環境も変わってきているようです。不登校もその一つで、中学生の居場所のことも気になっていました。そして乳幼児親子の居場所も。以前野田村の幼児保護者と子育てカフェを実施したこともありましたが、しかし、私達よそ者に何が出来るのか。そして、いくら阪神大震災時の経験から必要だと思っても、野田村にも当てはまるのかどうか。また地元社協が今後もこの活動にさく予算や人は？など課題は満載です。ただ、参加者は少しずつ増えてきていて、7月は生後半年の赤ちゃんからシニア世代まで30人ほどでした。この人数が多いかどうかとは思いますが、8月は西宮市の中高生と一緒に活動し、今年度は毎月1回のペースで実施する予定です。

Vision 117

令和に改元され、新しい時代を迎えたという雰囲気のもと、救援、復興、防災に分けて、NVNADから見た課題を改めて整理しています。今回は、復興について整理します。

災害ボランティアに注目が集まるのは、主に救援の場面です。しかし、災害は緊急時の救援活動が終われば終わりというわけではありません。救援活動の後には、長い復興への取り組みが始まります。災害ボランティアは、救援だけではなく、災害復興にも関わります。この動きは、特に2004年に発生した新潟県中越地震以降に活発になりました。

災害ボランティアという外部者（よそ者）が被災地に関わり続けることは、被災地の人々だけではなくなかなか気づきにくい事柄（地域の宝としての祭や伝統行事、地元の野菜のおいしさ、被災地の人々の次世代に向けた姿勢などなど）に気づききっかけとなったりして、復興に厚み深みがかかります。一方、復興現場で災害ボランティアが直面する問題もいくつか挙げる事ができます。ここでは2つ採り上げます。

まず、復興過程に関わる災害ボランティア活動はいつ終わるのか、それは誰が決めるのかという問題があります。被災地の人々と一緒に決めていくというのが、現時点で示すことのできる応えだと思います。ただ、復興まで活動資金がもたないという理由もあって、外部者である災害ボランティア側が、被

災地の人々との信頼関係を十分に樹立しないままに自らの企画を推進し、その成果を得られたら（得られないと見切ったら）撤退するといった事態になりかねないことが懸念されます。これでは、被災した住民は外部からの災害ボランティアに使われているだけであって、被災地の復興などおおよそおぼつかないこととなります。NVNADが復興過程にかかわる際に常に肝に銘じ、反省会で繰り返し採り上げ、被災地の人々とも何度も話し合ってきたのは、実はこの点です。

次に、これはまだまだNVNADの努力が足りないことなのですが、復興過程に関わる災害ボランティアに関する社会的な認識がまだ十分に広がっていないという問題です。大きな災害が発生すると、メディアを通じて全国から注目が集まり、災害ボランティアが現地に駆けつけます。しかし、報道量は日々少なくなっていく、社会の関心は如実に低下します。実は、復興過程に関わる災害ボランティアが活動を始めるのはこの時期なのです。災害発生当初には、ありがたいことにたくさんのご寄付を頂くことができます（ありがとうございます！）が、改めて、災害復興に対するご寄付をお願いするのはなかなか難しいのが現状です。

こうした問題は、阪神・淡路大震災から25年の節目を感じながら、令和の時代に取り組んでいく課題です。なかなか簡単に解決されるものではなさそうです。NVNADでは、これからも復興過程にある被災地に出向き、地道な活動を展開していきたいと思っています。現地で学び続け、改善を重ねていきます。どうか引き続きのご支援をよろしくお願い申し上げます。（理事長 渥美 公秀）

障がいを持った方の、避難ワークショップ

NVNAD監事 萩野茂樹

在宅障害者への介助サービスを提供している西宮市に事務所を持つ団体「かめのすけ」からの依頼で6月15日(土)、西宮市立勤労会館にて「障がいを持った方の、避難ワークショップ」を行いました。身体に障がいを持つ方にとって、率先した避難行動、つまり「生き延びるための避難」は切実ですが、障がいの種類別の避難訓練はあまり実施されておらず、またそのノウハウも十分ではないのが現実です。今回の参加者は25人。主に介助サービスを提供するスタッフですが、車いす使用の方の参加もありました。開催したワークショップは以下の2種類です。

●車いすで障害物を超える

発泡スチロール製のブロックとレンガをランダムに配置し、その上に段ボール板を載せて障害物を作成。人が乗る車いすを介助者が押して越える。発泡スチロールの上に段ボールを載せるのは、障害物の形状が分かりにくくするため。配置したスチロール製ブロックの高さは9センチほどだが、人の乗った車いすは非常に重く、男性の力でもなかなか容易に移動することができない。また、介助者の足元も不安定で、踏ん張ることができない。介助者一人での移動を体験していただいたが、実際には複数人が必要になるかもしれない。



●布担架で人を運ぶ

災害が起こった際に布担架を使って、障がいを持った方やけがをした人を運び出す方法を体験していただいた。布担架は、一万円以下で購入することができ、収納の際も小さくたたむことができる特徴を持つ。長さ180センチ、幅60センチ程度の丈夫な布に、8つほどの取っ手をつけたものが一般的。二人が両側から持ち運ぶことができる座り型の布担架をはじめ、会場が6階だったので、研修室前の階段でも人を載せた布担架での移動を体験していただいた。



人を運ぶのは想像以上に重く、また、布担架では形状が安定しないので、困難が生じます。少人数で長い距離を運ぶことがいかに大変であるかを体験することは、とても大切だと思っています。

*紙面の都合上、文章を割愛しております。原文につきましては、NVNADホームページブログをご覧ください。

大阪府北部地震1年の集い

2019年7月1日、大阪大学大学院人間科学研究科北館2階ラーニングコモンズにて、大阪府北部地震1年のつどいを開催しました。本会は、

2018年6月18日に発生した大阪府北部地震を機に立ち上がった有志の会「つっぱり棒会議」主催で行いました。つっぱり棒会議には、大阪大学人間科学部・大学院人間科学研究科の学生、院生、教員をはじめ、OOS協定先の当NPO法人の職員も参加し、昨年10月より、月1回ほどの会議を通じて議論を重ねてきました。地震発生から1年という節目に、発災当時お世話になった箕面国際交流センターや地区防災委員、吹田市社会福祉協議会の職員をはじめ、近隣の地域の方々に感謝の意を表するとともに、今後の災害に向けた連携を目指し、他大学の教員や災害ボランティアサークル「すずらん」の学生など、計30名を超える参加者が集まりディスカッションを行いました。

テーマ1「外国人の避難」 このテーマは大阪府北部地震においても顕著になった課題で、外国人のみならず、観光客や新しく転入してきた人など、その土地になじみのない人々を受け入れるために必要な要素について議論しました。日常のつながりはもちろん、各機関の連携や文化的・社会的配慮が必須であるという意見が出ました。

テーマ2「南海トラフ地震に向けて」 南海トラフ地震のテーマでは、幅広く議論を行いました。助け合うこと、助けを求めること、自分や自分のまわりが助かるための心がけなど、様々な要素が出てきました。また、頻発する日本各地の災害をいかに「じぶんごと化」できるかが重要だという意見もありました。



最後に、本会のまとめとして、吹田市社会福祉協議会の新宅氏にご挨拶いただきました。日々、地域社会の助け合いに向き合っていらっしゃる視点から、日頃のつながりや備え、各機関の連携の重要性についてお話いただきました。参加者からは、「このような機会をこれからも継続してほしい」「色々な立場の方々とのつながりを広げていきたい」などの声をたくさんいただきました。主催者としては、今回限りではなく、今後の防災・災害対応にまつわる情報共有、連携の場として、ぜひ生かしていきたいと考えています。参加してくださった皆様、本当にありがとうございました。

第21回NVNAD通常総会報告

第21回NVNAD通常総会は、2019年6月15日（土）西宮市において開催、提案された議案は原案通り承認され無事終了しました。

I. 第20期（2018年度）事業報告（2018. 4. 1～2019. 3. 31）

第20期（2018年度）を振り返ってみると、災害救援においては、6月に発生した大阪北部地震に対して、まず、地震当日の18日は震源に近い高槻市を訪問し飲料水などの配布、翌19日からは吹田市災害ボランティアセンターを通じてボランティア活動に従事した、また、7月に発生した西日本豪雨災害では、兵庫県丹波市や京都府宮津市、あるいは、岡山県倉敷市真備町や岡山県矢掛町などを中心に、支援活動に従事した。

2009年8月水害の被災地（佐用町久崎地区）では、チャコネット（佐用町学生支援ネットワーク）と共同でコミュニティカフェや竹炭焼きなどの活動を継続実施した。また、2011年3月の東日本大震災関連では、岩手県野田村から食材を取り寄せ関西で野田村ファンクラブが中心となって交流イベントを行ったり、福島県郡山市では地元のNPO法人ハートネットふくしまが、復興住宅で継続実施しているお茶会の支援活動をサポートした。その他にも地元西宮においては、県外避難者を対象にした活動をKSN（関西学院大学・災害復興制度研究所、西宮市社会福祉協議会、NVNADが主体）主催で開催し、交流イベント4回、学習支援イベント4回の合計8回実施した。そして、2014年8月の丹波市土砂災害の被災地では、子どもを対象にした防災教育や、2016年の熊本地震や2017年の九州北部豪雨災害においても、イベントなどの手伝いなども行った。

平常時の活動においては、活動の3本柱である、①『防災まちづくり活動』としては、子ども防災クラブや親子でわがまち探検隊をはじめ、西宮市の受託事業として防災教育事業として、親子での料理教室や防災ゲーム&運動会事業を実施した。②『講演・講座活動』としては、八尾市社会福祉協議会や伊勢市社会福祉協議会等からの継続した講座の依頼に加え、松戸市青年会議所や関西学院大学等、新規の講座依頼も多数あった。③『ネットワーク活動』としては、第23回チャリティカレンダー市を開催するにあたり地元の団体などと企画運営委員会を初めて結成し、また、ひょうご市民活動協議会（愛称：ひょうごん）や、兵庫県災害救援ボランティア活動支援関係団体連絡会議などを通じて、兵庫県内の他団体とのつながりを広げさせていただいた。その他、大阪大学（人間科学部）とは8月に、災害時対応、および、防災の取り組みにおいて連携をしていく協定も締結した。

（活動事業実績）

1. 災害に関する講演、講座事業 19回
2. 防災まちづくり事業（ワークショップ事業） 18回
3. ネットワーク事業 10回
4. 災害救援活動事業 57回
5. その他の活動 9回

II. 第20期（2018年度）決算並びに第21期予算

別表参照

III. 第21期（2019年度）事業計画（2019. 4. 1～2020. 3. 31）

災害支援関連では、東日本大震災をはじめ、熊本地震、西日本豪雨災害などでの活動を継続していきたいと考えている。岩手県野田村については、チーム北リアス（青森県八戸高等専門学校、青森県弘前大学、など）のネットワーク団体と情報交換しながら、交流イベント支援や子どもの交流事業など、被災地のニーズに寄り添った形での支援の継続を考えていきたい。また、福島県郡山市については、引き続きNPO法人ハートネットふくしまの活動を間接的に支援したいと思っている。地元西宮の県外避難者の支援については、KSN（関西学院大学・災害復興制度研究所、西宮市社会福祉協議会、NVNADが主体）主催での交流イベントや学習・遊び支援活動の継続を行いたい。また、南海トラフ巨大地震など新たに大規模な災害が発生した場合は、近畿ろうきん社会貢献預金「笑顔プラス」制度を活用して活動可能な範囲で迅速な対応をしていきたい。

平常時の活動については、これまでの①防災まちづくり活動、②講座・講演活動、③ネットワーク活動の3本柱の活動を中心に、加えて今年度も「健康と防災（災害）」をテーマに「ウォーキング」を中心にした事業や、西宮市や西宮市社会福祉協議会と連携して「災害ボランティアセンター運営訓練」や「災害ボランティア養成講座」などの事業を充実させていきたい。また、昨年8月に協定を締結した大阪大学とは、昨年発生した大阪北部地震に関連した様々な取り組みに関わっていただけると考えている。中でも、学生主体で立ち上がった「すいすい吹田」というグループと一緒に、吹田市内のコミュニティづくりの活動を計画中的である。また、来年1月には阪神・淡路大震災から25年（NPO法人化20年）に合わせて、記念事業を検討していければと思う。そして、財源確保については、秋から始まる予定の休眠預金や助成金申請、寄付金募集などを行っていききたい。尚、将来を担ってもらえる若手人材の発掘と養成にも引き続き取り組んでいきたいと思っている。

I. 災害救援の活動

1. 災害救援活動

（1）東日本大震災の支援活動

- ①被災地の支援活動（岩手県野田村、福島県郡山市など）
- ②西宮市内での避難者支援活動（KSNプロジェクト）
- ③野田村ファンクラブ

- (2) 兵庫県佐用町・丹波市水害の支援活動
- (3) 熊本地震・九州北部豪雨災害の支援活動
- (4) 西日本豪雨災害の支援活動

II. 次の災害に備えるための防災（広報・啓発等）の活動

1. 地域防災活動

- (1) 子ども防災クラブ
- (2) 親子防災事業（防災イベント、防災料理教室）など

2. 防災意識高揚のための取り組み

- (1) 災害や防災に関する講座・研修等の受託事業
- (2) 講演等の受託事業

3. ネットワークの拡充

- (1) 全国災害救援ネットワーク（Jネット）総会
- (2) ひょうご市民活動協議会（愛称：ひょうごん）
- (3) 災害救援ボランティア活動支援関係団体連絡協議会（兵庫県）
- (4) チャリティカレンダー市

4. 新規事業の企画・・収益（事業、会費、寄付など）を高めるために

- (1) 学生出前カフェの実施（阪大との協定事業）
- (2) 防災IT事業（阪大もん）の実施（NPO法人北いわて未来ラボ&阪大）
- (3) 防災ウォーキングイベントの協力（西宮コミュニティ協会）
- (4) 自治会単位での地区防災計画の企画（防災、福祉、コミュニティの課と連携する）
- (5) 震災25周年事業（NPO法人認証20年）
- (6) 寄付や助成金獲得について検討会（休眠預金やファンレジンなど）
- (7) 若手育成プロジェクト（次世代のリーダー育成） など

III. 今年度末の災害救援準備金残高 1,000千円

（災害救援準備金の取り扱い細則）

- (1) 国内外で災害が発生し、緊急出動のための費用は、理事の承認を受け引当貯金を取崩し、次回総会で報告の上、承認を受けることとする。
- (2) その内、500千円は、近畿ろうきんの寄付制度「すまいる」より、近畿圏内での災害支援活動の費用として積み立てを行う。

(別表)

活動計算書（第20期決算及び第21期予算）

「一般会計・特別会計（災害救援）」

(単位：円)

科 目	第20期予算	第20期決算	第21期予算
I. 経常収益			
1. 受取会費	940,000	770,500	830,000
2. 受取寄付金	2,720,000	5,316,303	1,120,000
3. 受取助成金	1,000,000	1,260,549	1,500,000
4. 事業収益	4,360,000	3,094,522	3,960,000
5. その他収益	1,000	327	600
経常収益計	9,021,000	10,442,201	7,410,600
II. 経常費用			
1. 事業費	14,831,114	13,346,777	12,627,716
2. 管理費	2,103,864	1,510,969	1,939,164
経常費用計	16,934,978	14,857,746	14,566,880
税引前当期正味財産増減額	-7,913,978	-4,415,545	-7,156,280
法人税、住民税及び事業税	82,000	82,000	82,000
当期正味財産増減額	-7,995,978	-4,497,545	-7,238,280
前期繰越正味財産額	39,560,365	39,560,365	35,062,820
次期繰越正味財産合計	31,564,387	35,062,820	27,824,540

西日本豪雨災害支援活動

第32報

7月6日、真備追悼復興一年祭に参加しました。我々大阪大学人間科学部学生の5名は、子どもを対象としたペットボトルボーリングを企画しました。暑い中、多くの子どもたちが汗をかきながら楽しそうに参加してくれ、子どもたちの楽しそうにボーリングをする姿に、企画した我々も元気をもらい、笑顔のあふれるブースとなりました。また、今回の真備追悼復興一年祭では、参加者全員で2400本の線香花火をしたり、スカイランタンを行ったりしました。多くの方の笑顔を見ることができ、ふと忘れてしまいそうになりますが、短冊には未だに家に帰ることのできない方の“早く家に帰りたい”という切な願いも書かれていて、まだ復興は終わってはいないということを強く実感しました。豪雨災害から一年という月日が経ちましたが、これからも被災された方が笑顔になってくれる活動を続けていきたいと思います。

学生代表 梶 健太(大阪大学 人間科学部 3年生)

第33報

7月21日、真備町市場仮設団地での交流会に参加しました。大阪大学からは教員2名、学生3名の計5名で交流会のお手伝いをさせていただきました。約20名の被災者の皆さまが集まりました。当日は同災害支援センターによる串カツの炊き出しがあり、仮設の皆様と一緒に揚げ、頂きました。仮設ではなかなか揚げ物ができず、住民の皆様も非常に喜んでおられ、私たちも嬉しかったです。また、今回の交流会では炊き出しだけでなく、コースターやフォトフレームをガラススタイルで飾る手芸会も開催しました。ガラススタイルの配置を、ああでもない、こうでもない、と集中し並べる時間は楽しいとお声も頂戴しました。

仮設団地には空き家が散見されるものの、復興はまだ道半ばです。今回は仮設団地にお住まいでない方も交流会に参加してくださいました。この交流会での何気ない会話が被災者の皆さまのコミュニティ形成の一助となればと思います。

学生代表 北川 菜歩(大阪大学 人間科学部 4年生)

子ども防災クラブ



7月13日(土)高木小学校にて、今年度の「子ども防災クラブ(Dクラブ)」がスタートしました。今年は、新メンバーの3年生が7人も加わり、とても賑やかになりました。全員で自己紹介をしたあと、昨年度の映像を流しながら活動の説明をして、8月に実施するキャンプについても説明を行いました。プログラム最後の『名前ビンゴゲーム』では、子ども達・保護者・大学生リーダー、社会人ボランティア全員が参加し、初対面の人同士も一気に距離が縮まったように思います。これからの一年間、楽しみながら防災のことをたくさん学んでほしいです。

KSN交流会

K S N
(関西学院大学、西宮市社会福祉協議会、NVNADの3者が主催)

7月31日(水)、KSN夏の交流会を開催しました。西宮から三田市にある関西学院大学の千刈キャンプ場まで貸切バスで行き、ザリガニ釣りをしたり、カレーやアイスクリームづくりなどを行いました。今回参加したメンバーは親子が30名弱、スタッフ&リーダーを合わせ約40名。とても暑かったですが、夏の楽しいひと時を過ごしていただけたのではないのでしょうか。大阪大学災害ボランティアサークル「すずらん」の皆さん、ご協力ありがとうございました。



ふれぼの縁日

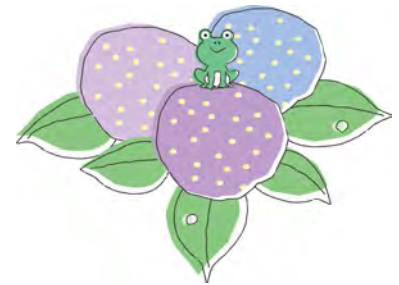


7月26日(金)、事務所近くの『ふれぼの』にて、今年で第4回目となる『ふれぼの縁日』が行われました。西宮市社会福祉協議会主催によるお祭りでも、毎年たくさんの方で賑わいます。当団体も恒例となりました被災地の野菜や手作り品を販売させていただきました。熊本県益城町からは仮設の人たちによる手作りブローチ、新潟県塩谷集落と兵庫県佐用町・丹波市からはじゃがいもと玉ねぎをはじめ新鮮な野菜が届き、お陰さまで好評のうちに完売となりました。障がいを持つ方や施設のご近所の方とふれあう良い機会となり、被災地のPRもさせていただきました。野菜を送って下さった被災地の皆さまと西宮市社協さんに感謝申し上げます。

Nうごき

NVNADの活動をお知らせするコーナーです。

5月	15日	通常理事会（西宮市）
	17日	災害ボランティアセンター会議（西宮市）
		Newsletter Vol.119発行
	17~19日	野田村訪問（岩手県）
	24日	NVNAD会計監査（西宮市）
	25日	佐用町訪問（兵庫県）
	26日	災害ボランティア講演会（大阪府八尾市）
6月	2日	西日本豪雨災害支援活動（岡山県真備町）
	3日	防災研究会シンポジウム（兵庫県姫路市）
	15日	NVNAD通常総会（西宮市）
		防災講演会（西宮市）
	15~17日	野田村訪問（岩手県）
	18日	近畿ろうきん合同説明会（大阪市）
	22日	防災ツアー（大阪府吹田市）
	23日	防災講演会（大阪市）
	24日	ひょうごん総会（神戸市）
7月	1日	大阪府北部地震1年のつどい（大阪大学）
	6~7日	西日本豪雨災害支援活動（岡山県真備町）
	13日	子ども防災クラブ（西宮市）
	19日	防災講演会（西宮市）
	21日	西日本豪雨災害支援活動（岡山県真備町）
	25日	近畿ろうきん講座（兵庫県明石市）
	26日	ふれぼの縁日（西宮市）
	27~28日	佐用町水害10周年行事
	31日	KSNプロジェクト「千刈キャンプ」（兵庫県三田市）



Nごよみ

今後の予定・講演などのスケジュール

8月	2日	ボランティアセンターマニュアル研修会（西宮市）
	5日	近畿ろうきん講座（兵庫県尼崎市）
	5~6日	西日本豪雨災害支援活動（岡山県真備町）
	7日	防災チャレンジキャンプ（西宮市）
	17日	ニュースVol.120発行
	30日	防災講演会（大阪府八尾市）
9月	8日	野田村ファンクラブのつどい（大阪市）
	11日	近畿ろうきん講座（神戸市）
	15日	生協まつり（大阪市）
	19日	災害ボランティア養成講座（西宮市）
	21日	災害ボランティア養成講座（西宮市）
	22日	防災イベント（西宮市）
10月	19日	第3回子ども防災クラブ（西宮市）



～会員・寄付者・募金者のみなさま～

(2019年5月1日～7月31日)

■会員のみなさま

個人正会員：「継続」梶昌代、田中正秀、平川りつ子、花岡豊

個人賛助会員：「新規」長野理恵子

「継続」荒銀昌治、渡辺保、渡辺鶴子、加藤敬蔵、三浪治子、上野由紀子、柴藤成利
大槻安樹子、朝井朋子

法人正会員：「継続」株式会社笑顔の食卓

団体正会員：「継続」社会福祉法人光朔会オリンピック

■寄付者のみなさま

大阪大学支援チーム、渡辺保、戸口京子、深山操江、阪田宏、古塚純江、渥美久栄
ソフトバンクかざして募金（寄付者）の皆様

■募金者のみなさま

「東日本大震災」グッドスナカヤマヨシ

「西日本豪雨災害」弘前大学ボランティアセンター

■ご協力いただいたみなさま 株式会社高山堂、株式会社フェリシモ

(順不同、敬称略)

ご支援、ご協力ありがとうございました。

なお、振込み頂いた方につきましては、振込名でご紹介させていただきましたのでご了承下さい。

ご報告と御礼

当団体は、2014年6月19日に認定NPO法人格を取得しました。5年間の有効期間を経てこの度兵庫県の監査を受け、無事に認定の更新をすることができましたので、ご報告させていただきます。これもひとえに当団体を支えてくださる皆さまのお陰です。心より御礼申し上げます。

NVNADを支えて下さい

当団体は、災害救援支援活動や防災まちづくり活動、ネットワーク活動、災害についての講演、講座、セミナーなどの活動を行っております。皆様から頂いた寄付は、この活動を継続していくために役立ててまいります。ぜひともご支援・ご協力いただきますようお願い申し上げます。

【振込銀行】 三井住友銀行 西宮支店 普通 No. 7833406
(名義) 特定非営利活動法人 日本災害救援ボランティアネットワーク

当団体は認定NPO法人ですので、いただいた寄付金は税制優遇を受けることが出来ます。

1月中旬～下旬に寄附金受領証明書を送付させていただきます。

銀行振込ではカタカナ名しか把握できませんので、お手数ですが住所と連絡先をお知らせ下さい。TEL 0798(34)9011

編集後記

今年も台風のシーズンになりました。風は台風の進路方向に向かって、右側が特に強くなる傾向にあります。雨は台風から離れていても降ることがあります。台風から離れた地域でも安心せずに、早め早めの準備をしていきましょう。(H.T)

認定特定非営利活動法人 日本災害救援ボランティアネットワーク [NVNAD]

〒662-0854 兵庫県西宮市櫛塚町2番20号 西宮商工会館南館 TEL0798(34)9011 FAX0798(34)9022

http://www.nvnad.or.jp/ 発行人：渥美公秀